

科目名	生徒指導論 (進路指導を含む)		科目 コード	L10064	単位数 時間	2単位	対象 学年	2年	開講 学期	後期
						30時間				
区分	資格関係科目		担当者名	西東 克介				授業 形態	講義	単独
	教職資格科目	必修								
授業の 概要	<p>[キーワード：数値化できない能力、学力] これまで日本の学校でおきた、またはいつでもおこりうる問題を中心に考えてもらいます。とくに、いじめ問題への理解と備えは、どのような学校であれ極めて重要です。まずは時間をかけて環境形成し、備えることです。次に、いじめ問題への対応をしつつ、生徒の反応を積み重ねることです。最後に反省をし、新たな視点を見出し行動していくことです。自らの「マニュアル」を徐々に作成していくしかないので、他の問題のほとんども同様のサイクルを繰り返しながら、生徒指導の能力を高めていくことです。</p>									
到達 目標	<p>生徒指導は、教員が生徒に指導・助言を行うことです。だが、教員ができるかぎり、あらゆる生徒に対応できる能力を磨いていこうと思えば、教員が生徒を通じて、生徒から学ぶことを忘れないことです。もちろん、この実践を続けることは、極めて難しい。現時点で、学校現場に出ていない受講者には、せめてこのことを理屈だけでも理解してもらいたい。</p>									
授 業 計 画										
回	主 題			授 業 内 容 (授 業 時 間 外 の 学 修 を 含 む)						備 考
第1回	本講義の概要・展開方法・試験等の説明			8年間の高校現場での経験をもとに、政治学・行政学・教育学の視点で概説する。						
第2回	生徒個人としての課題 (1) 将来と生き方			夢あるいは具体的目標を持ち、このことを強く信じて生活していくことが、自分を律し、そして能力を高めていくことを概説する。						
第3回	(2) 進路と職業			前回の目標はできれば、生徒が自分の将来の職業と結びつけられるように、担任が少しずつ関連する情報を生徒に提供していく。このことの繰り返し極めて重要であることを理解する。						
第4回	(3) 進路と学習			いわゆる学習は極めて重要だが、部活動や趣味、友人関係においてコツコツと努力する習慣を身につけていくことも重要。なぜなら、その努力する習慣は学習のみならず、あらゆることに応用可能だからです。このことに関わる情報提供を生徒に地道に行っていくことを伝える。						
第5回	個人と集団の課題としての生活 (1) あいさつと集団			あいさつは、意識せずともできるようになることが必要である。細かな点は別に、このレベルに達していれば、あらゆることに可能性を導きだせる。						
第6回	(2) いじめのおきる背景			いじめがおきる背景を時代の違いで分析する。						
第7回	(3) いじめの社会的分析			いじめ問題は当事者同士のみならず、第三者が関係し強められることが多い。						
第8回	(4) 西東の経験したいじめへの対応			高校の教員時代、人権教育の責任者と生徒指導部のメンバーだったことから、あるいじめ問題に対応責任者として関わった。その時の過程と配慮すべきことの伝達。						
第9回	(5) 掃除と生活態度			いじめ問題をはじめとした生徒指導には、まず教員と学級の生徒たちとの関係づくりから行うこと。そのための最も重要な手段が校内の掃除である。						
第10回	(6) 性の問題と人権			生徒の性の問題や疑問は、一般に外部情報や友人からの情報に影響を受ける。こうした情報には間違いや偏見のあるものが珍しくない。そうした情報に歪められない基本的な考え方を伝える。						
第11回	教員と教員相互の課題としての指導体制 (1) ホームルームと担任			学校の基盤は学級である。担任と生徒の地道なホームルーム活動によって、学級は形成されていく。その際の担任の基本的考え方や立場について理解。						
第12回	(2) 担任と学年会議			学年は担任・副担任にとって学級を形成していく重要な補助組織である。他学級の担任・副担任からの情報により、担当する学級の調整をしていく。						
第13回	(3) 人権への配慮と生徒指導部			生徒指導部の活動は学校の秩序形成に寄与する活動である。その際対象となる生徒に人権配慮を常に考えておくことが必要。						
第14回	プロフェッショナルとしての教員の資質			プロフェッショナルとしての教員の資質の分析。重要な資質は目に見える資質が目に見えにくい資質によって向上していくことを理解。						
第15回	生徒指導の能力を向上させる教員の資質			教員の目に見えにくい資質を育む方法の理解。						
評価 方法 及び 評価 基準	試験(100%)文章の構成と論理性を中心に評価									
教材 教科書 参考書	適宜、参考書等を講義において紹介します。									
留意点	第1回目の講義に欠席する学生は、事前に連絡をすること。									